

第4期多摩区区民会議 第10回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成26年1月17日(金) 午後6時00分～8時05分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	辻野部会長、松本副部会長 大津委員、国保委員、戸高委員、本多委員、配島委員、(以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、井川係長
コンサルタント	斉藤研究員
傍聴者	1名

1 審議にあたって

2 審議

(1) 審議スケジュール

辻野部会長 報告書の報告時期も迫ってきた。最初に今後のスケジュールについて事務局から説明してもらいたい。

事務局 事前に第4期委員に次回全体会開催の日程について問合せたところ、参加人数が揃わないため、報告書案については2月にコミュニティ部会、自然災害部会を開催し部会で確定し、その後に開催する全体会ではそれを承認する手順としたい。全体会は3月14日(金)～24日(月)までの間で、委員の出席がもっとも多い日で決定したい。区長への報告は3月26日(水)～28日(金)までの間とし、企画部会委員と希望者で手渡すセレモニー的な形式となる。全体会が24日に決まった場合は、改めて区長報告の日を設定するよりもこの日に区長に手渡すことも考えられる。

大津委員 前期の区長報告会のときは終わった後に全員で反省会兼慰労会をやったが、今期はどうか。

事務局 今後検討する。

本多委員 全体会の日程はなるべく早く決めてほしい。

事務局 そうしたい。すでに都合が悪い日程がわかっているならば、挙げていただきたい。

○3月17日(月) 配島委員

○ 〃18日(火) 国保委員・本多委員・配島委員

○ 〃20日(木) 大津委員・本多委員・石橋委員

○ 〃24日(月) 配島委員

全体会日程については追って改めて、問い合わせをする。

(2) 報告書案について

事務局 本日配布した報告書案については、Ⅰ、Ⅱ、Ⅳについては何かあれば事務局まで連絡してもらうことにし、Ⅲのコミュニティ部会の案について説明し、議論したい。

(事務局がコミュニティ部会報告書案について説明)

辻野部会長 報告書案について意見を出してほしい。

国保委員 Ⅰの2頁にコミュニティ部会、自然災害部会の二つができたことと記述され、さらに8頁でコミュニティ、自然災害の二分野の課題を設定したとあるのは、重複ではないか。

事務局 2頁はその後の課題設定などの経過も含めてサマリーとして先に記述している。

松本副部会長 市のフロンティアプランが出てくるのは、唐突な印象を受けた。

辻野部会長 第4期委員会の開始時に、現在の市のフロンティアプランで市と区の計画内容について説明を受けたので、審議の過程で確認した話である。

国保委員 Ⅲの2頁にはアがあって、続くイがない。アは要らない。

コンサル アは取ります。

松本副部会長 第3期は報告としているが、今期は提言とするのか。

事務局 前期はなんらかの議論があって報告としたようだが、通常は区民会議から区長への提言となっている。

松本副部会長 提言の記述が、淡々として寂しい。提言は審議経過とダブるかもしれないがもっと中身があったほうがよい。

辻野部会長 第3期では施設マップを出したが、今期はイベントカレンダーの形態を案として出さなくてもよいか。審議の間にカレンダーの具体的なイメージができなかったから、言葉だけの提言でさっぱりしている。

配島委員 カレンダーの形になっていなくても、載せたい項目、形態案、他地区の人が出られる行事、出られない行事を区別するなどの検討内容は、載せではどうか。

松本副部会長 フォーマットの形にしてしまうと、タテがよい、ヨコがよいと意見が出るが、日にちや行事名称、場所などの掲載項目は入れておいてもよい。

配島委員 誰でも参加できるかどうかの区別を書いてもよい。現在の記述はイベントカレンダーをつくらうという言葉だけになっている。

辻野部会長 フォーラムではイベントカレンダーについては押しなべて賛成の意見だった。そうであるなら具体的な案がなければいけないのか。

松本副部会長 第3期報告書の報告はあっさりしていて、審議経過部分に意見がたくさんでたと書いてある。その場合意見は出たが、抽象的な提言で終わったと受け止められる。第4期も、最終的にこうしようというところまではいかなかったが、集約しようとはしていた。そういうものを入れたほうがよい。

本多委員 私も前期は松本副部会長と同じ気持ちをもった。しかし提言を受取った人から見ると、制約されてない提言がよい。イベントカレンダーは5頁の審議経過に議論の経緯や注意事項が書いてある。これを受取った主体が、こういう問題があると認識しながら、イベントカレンダーをつくれればよい。例として出すのはよいが、それに束縛されるようなものならば、ないほうがよい。

松本副部会長 提言については、受け取ったところはどうやって実現するのか。

事務局 イベントカレンダーについては、市民がすぐに出すことにはならないだろう。市が区民会議から提案を受けたということで、平成26年度に形にすることになる。健康と食育をテーマにしたふれあいの活動については、支援するとなっているので、市や区でやっている活動を支援することになる。あいさつ運動の展開については、各地の例を見ても学校や地域が始めた例が多い。また多摩区ではすでに見守りの中でやっている地域も多い。市が担当する部分がある程度はあるが、どちらかという地域が行うことではないか。

松本副部会長 報告書は誰でも見ることができるのか。

事務局 誰でも見ることができるようにする。ダイジェスト版も出す。

松本副部会長 議論したことの熱い思いを伝えたい。具体的にすると足かせになるかもしれないが、思いは入れておきたい。

石橋委員 提言は本多委員が言うようにこのくらいのほうがよいだろう。審議で得られたことは審議経過で載せればよい。これを受取って行政と市民の協働の場をどうつくるかというのは、次の段階の問題だ。

本多委員 前期の区民会議では環境についての提言があり、これを多摩区まちづくり協議会で受けた。しかしながら、まちづくり協議会の環境プロジェクトの人たちが考えている啓蒙活動があるから、報告書の提言通りにするのは大変難しい。

松本副部長 我々の議論したことがすべてそのまま実現するとは考えていない。

戸高委員 このまとめ方のなかで、どうやって私たちの納得できる言葉で載せられるかだということだと思う。

松本副部長 「区民会議フォーラムでの意見」というタイトルをつけると、単に意見がたくさん出たと受け止められる。議論する時間が少なかったのだが、議論の中身は書いておくべきだと思う。

石橋委員 目的に「地域コミュニケーションの再生をはかる」とあるが、議論の中では再生という言葉が全く出てこなかった。再生は死んでしまったものを生かすことだ。

辻野部長 フォーラムの検討をする全体会で「コミュニケーション能力を育む」というタイトルは適切ではないという問題提起があり全員で議論して、この言葉を採用した。

松本副部長 能力という言葉には違和感があった。それを再生という言葉に変更するのも違和感があった。「コミュニケーション力の強化」の方がよい気がしていた。

辻野部長 かつては隣近所でコミュニケーションがあったが、最近はそれが希薄になってきた。そこでもう一度あいさつしあえるようにしようという意味の再生で、死んだものを生き返らせるのとは別ものだ。

国保委員 今の社会状況ではコミュニケーション能力が衰えて発揮できなくなっている。それをもう一度復活させようということで、再生でよいと思う。

石橋委員 地域という言葉をつけてよいか。コミュニケーションには団体同士のもの和个人の間のものがある。地域をつけるのはどういう意味になるか。

国保委員 地域とは、多摩区でのという意味だ。

戸高委員 町会の中でも新しい世代と古い世代の間のコミュニケーションがうまく行っていない、地域に入ってこないという話を聞く。今期は地域を大切に考えてきたので、地域が入っていてよいと思う。

本多委員 地域コミュニケーションを「身近なコミュニケーション」にしてはどうか。小さなかたまりや人と人のコミュニケーションだから、地域の定義よりも身近な人同士のコミュニケーションではないか。

辻野部長 身近なところではむしろコミュニケーションができています。フォーラムではこの文章で案内を出した。それを変えることはどうか。

大津委員 活性化ということばではどうか。

国保委員 地域コミュニケーションの再生で悪いわけではない。

辻野部長 では地域コミュニケーションの再生で行きましょう。

石橋委員 1頁の「現状と課題」の3つ目の段落で大規模住宅の増加だけが人とのふれあいをなくすわけではないので、表現を改めた方がよい。

事務局 表現を変えます。

大津委員 12頁の右枠で、「企業にも参加を呼びかけたい」とあるが、企業内ではよくあいさつしているので、企業に呼びかけるのは違和感がある。

本多委員 フォーラムでそういう意見が出たので、変えなくてもよい。

松本副部長 確かに違和感があるが、実際には企業でも人事部や教育部であいさつ運動をやっていた。企業でもやる必要があるといえるが、組織の中ではあいさつするが組織の外に出るとあいさつしないことが問題だ。

石橋委員 外に向けてもあいさつしようとして会社にも呼びかける意味でよいのではないか。

コンサル 本日議論された事項を再確認したい。提言の内容をもっと具体的にしたいという点はどうするか。

辻野部会長 審議経過の中で、これまで収集した祭り・行事の内容を整理し、記載方法などの内容に言及すれば、提言での表現は現在の程度でよいのではないか。

石橋委員 町会・自治会の住民に参加が限定されるイベントがあることは、ふれておいた方がよい。

本多委員 イベントと祭りはどう違うのか。イベントという言葉は、市民に通じるか。

戸高委員 誰でもが参加可能なお楽しみ企画のイベントと地域の祭りでは違う。祭りの部分は氏子さんたちが行き、そのあとの交流の時にはより広い人たちの参加が許される。

コンサル イベントは誰もが参加できる企画された催し物を指す。伝統的な祭りは一般的なイベントとは少し異なる。

石橋委員 イベントはイベントカレンダーと記述するときのみに使い、区、地域、商店街、大学、民間活動団体などのイベントは、「祭り・行事」の表現に統一する。イベントカレンダーのイベント掲載方針…とあるのはイベントが重複するので、取る。町会の祭りなど参加者が限られるものがあることについて、提言でもふれておく。

辻野部会長 11頁3行目の「困難性が高い」は、違和感がある。

石橋委員 困難性が高いは、課題が多々あるなどやわらかい表現を工夫する。

辻野部会長 その後の4行目「このテーマ」とある行は、ふれあいの可能性を秘めている点を強調し、選択という言葉は変えた方がよい。

石橋委員 議論の当初は農家が収穫するときに市民も一緒に収穫に参加して、農家の手助けもできるし、食育や健康も考える話だった。農家に負担を押し付けるわけではなかった。

松本副部会長 区内の農家は手伝いをほしいほど多くつくっていない。子ども会向けの芋掘りをやっているが、すごく手間がかかる。

石橋委員 農家に手間がかかる仕組みではなく、梨のもぎ取りを観光農園型でやるような農家との関わりが話のスタートだった。しかし、今からそこまでは戻れないので、ふれあいの可能性があるテーマなので、支援したいということで収めるほかない。

本多委員 里芋掘りはフィールドワークと表現してよいか。

辻野部会長 里芋掘りには参加できなかったが、主催者など関係者にヒアリングをした。

戸高委員 区民会議としてはフィールドワークしたという表現で間違いはない。

辻野部会長 フィールドワークでよいと思う。

本多委員 里芋掘りの開催概要に主催者を入れた方がよい。協働とあるのはよいか。

コンサル 事業のプログラムにそのように表現している。

戸高委員 市民と行政がともにやるときにはこの言葉を使う。

コンサル あいさつ運動の事例には神奈川県教育委員会の事例を追加する。

石橋委員 事例の順序は学校の事例と町の事例をばらばらにせずに順序を考えた方がよい。

大津委員 学校では中でのあいさつは徹底している。外に出てきたときのあいさつができない。

事務局 今日検討した項目以外の気になった点は、事務局に連絡がほしい。今後の予定としては、今日の議論の結果を反映した修正案をできるだけ早く委員の手元の送り、次回部会までの間に見ておいてもらい、次回部会で最終案まで決定したい。

2 スケジュール

○第11回コミュニティ部会 2月26日(水)18時～

以上